

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

2025年 10月 25日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 大学院医学研究科肝胆膵・移植外科

職 名・学 年 大学院3回生

氏 名 岩城謙太郎

助 成 の 種 類	令和7年度 ・ 国際研究集会発表助成		
研 究 集 会 名	American college of surgeons clinical congress 2025		
発 表 形 式	☐ 招 待 ・ ☒ 口 頭 ・ ☐ ポスター ・ ☐ その他(		
発 表 題 目	Transplantation of the Regenerated Intestine Using Decellularized Technique Improved Outcomes in Short Bowel Syndrome.		
開 催 場 所	Chicago, IL, America		
渡 航 期 間	2025年 10月 3日 〜 2025年 10月 11日		
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版1枚程度で作成し、添付して下さい。 「成果の概要」以外に添付する資料 ☒ 無 ☐ 有()		
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	350,000円	
	使用した助成金額	350,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳 (差し支えなければ要した 経費総額をご記入ください)	費 目	金額(円)
		航空運賃	265,280
		宿泊費	84,720
		滞在費	
		学会参加費	
	その他		
以上に助成金を充当			
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 昨今の物価高においては米国での学会に参加するにあたっては航空券と宿泊費の一部に充当して底をつき てしまいましたが、大変ありがたかったです。ありがとうございました。		

成果の概要／岩城謙太郎

今回参加したアメリカ外科学会是世界最大の外科の学会であり、世界中から外科医が訪れる一大イベントである。シカゴのマコーミックプレイスで開催され、そのすべての日程に参加した。

ここで私は現在行っている研究の一部を発表した。まずラットの小腸を脱細胞化する。この処置により臓器はすべての細胞を失うが細胞外基質と微細構造は保たれる。そして免疫原性をほぼ持たなくなるためあらゆる移植に使用することができるようになる。そのためこの脱細胞化骨格は再生医療の有望な足場として期待されている。私はここに従来の手法通りに種々の細胞を移植するのではなく、この足場自体をそのまま同所移植することで、隣接する通常の臓器から細胞が浸潤して、臓器再生が生じることを発見し、この再生した小腸が通常の小腸と遜色のない機能を有することをラットの短腸症候群モデルを作成して、再生小腸の移植群と非移植群の比較を行うことで示した。反響は大きく、多数の質問をいただいた。特に脱細胞化骨格は、細胞移植のための足場という従来の概念が浸透しているため、細胞移植を行わずとも臓器が再生したことについて聴衆の驚きと興味を感じた。

国際学会での発表は今回の発表で3回目であり、以前に比してゆっくりとわかりやすく発表することができた。また質疑に対しても今回はしっかりと返答することができ、議論を深めることができ、自信がついた。他者の発表に関しても積極的に質問を行うことができた。

また、現在国内で計画中のプロジェクトについて、アポイントメントを取ったうえで、学会のアドボカシー部門の医師責任者に取材を行うこともできた。

さらに今回、名誉あるアメリカ外科学会フェローに選ばれたためそのレセプションパーティーにも参加して、多くの外科医と知り合うことができた。

国際学会への参加は発表を含めて得られるものは大変大きいですが、移動費、宿泊費、学会参加費の費用負担が大きいのがしかかってくる。しかしコネクションの構築などWEBでは得られないものが多数あるため年に1回はぜひ参加したいと思っている。今回、京都大学教育研究振興財団助成事業により航空券と宿泊費の一部を賄うことができ、大変感謝している。申請形式も他の助成事業と比してシンプルであり、負担が少なく、申請者に寄り添った事業であると感じた。今後とも事業を継続していただき、多くの志ある若手研究者を支援くださればと存じます。

今回、選出してくださり本当にありがとうございました。心から感謝申し上げます。